平成 25 年５月 14 日

各　位

会 社 名　明治機械株式会社
代表者名　代表取締役社長　　河野　猛
（コード番号　６３３４　東証第二部）
問合せ先　総務部長　　高工　弘
（TEL．03－5295－3511）

特別損益の計上及び平成 25 年３月期通期業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

この度、下記の特別損益の計上がありますので、その概要をお知らせするとともに、平成 25 年３月 14 日に公表いたしました通期業績予想値（連結・個別）と本日公表の実績値に差異が生じましたので、お知らせいたします。

記

１．特別損益の計上

（１）連結

①特別利益

ⅰ固定資産売却益

海外連結子会社明治機械(徳州)有限公司において、建物の売却を行い固定資産売却益３百万円を計上いしました。

②特別損失

ⅰたな卸資産評価損

連結子会社ラップマスターエスエフティ株式会社は２年前に半導体事業を事業譲渡しており、当期末に至り２年間の保管義務期間が満了したこと、また、平成 25 年度中の同社の清算を予定していることから、販売可能性を勘案した結果、半導体事業に係る連結子会社ラップマスターエスエフティ株式会社の商品等及び当社の仕掛品について、たな卸資産評価損 683 百万円を計上いたしました。

ⅱ固定資産除却損

当社の固定資産の老朽化により固定資産除却損 95 百万円を計上いたしました。

ⅲ減損損失

事業の用に供している資産については、キャッシュ・フローを生み出す最小単位によって、賃貸用資産及び遊休資産については、個別にグループ化を行っております。当社グループは資産について、海外連結子会社明治機械(徳州)有限公司の建物及び機械装置の収益性の低下により、将来の収益性を検討した結果、投資額の回収が見込めなくなったため資産の帳簿価額を全額減額し、減損損失 208 百万円を計上いたしました。また、本社ビルの土地・建物について減損損失 630 百万円を計上するなど、総額 844 百万円を計上いたしました。

ⅳ投資有価証券評価損

当社の所有する非上場株式の純資産が著しく下落していたため、投資有価証券評価損 270 百万円を計

上いたしました。

（２）個別

①特別損失

ⅰたな卸資産評価損

連結子会社ラップマスターエスエフティ株式会社は２年前に半導体事業を事業譲渡しており、当期末に至り２年間の保管義務期間が満了したこと、また、平成 25 年度中の同社の清算を予定していることから、販売可能性を勘案した結果、半導体事業に係る当社の仕掛品について、たな卸資産評価損 529 百万円を計上いたしました。

ⅱ固定資産除却損

当社の固定資産の老朽化により資産性を勘案した結果､固定資産除却損 95 百万円を計上いたしました。

ⅲ減損損失

本社ビルの土地・建物について減損損失 630 百万円を計上いたしました。

ⅳ投資有価証券評価損

当社の所有する非上場株式の純資産が著しく下落していたため、投資有価証券評価損 270 百万円を計上いたしました。

ⅴ関係会社出資金評価損

海外連結子会社明治機械(徳州)有限公司の純資産が著しく下落したため、関係会社出資金評価損 318 百万円を計上いたしました。

２．業績予想数値と実績値との差異

（１）連結

平成 25 年３月期通期連結業績予想数値と実績値との差異(平成 24 年４月１日～平成 25 年３月 31 日)

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	5,587	△19	△23	△63	△6 円 64 銭
実績値（B）	5,469	△277	△289	△2,201	△232 円 4 銭
増減額（B－A）	△118	△258	△266	△2,138	
増減率（%）	△2.1	－	－	－	
（ご参考）前期実績（平成 24 年３月期）	8,413	201	252	369	38 円 95 銭

（２）個別

平成 25 年３月期通期個別業績予想数値と実績値との差異(平成 24 年４月１日～平成 25 年３月 31 日)

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	4,075	△44	△46	△60	△6 円 32 銭
実績値（B）	4,033	△278	△267	△2,121	△223 円 58 銭
増減額（B－A）	△42	△234	△221	△2,061	
増減率（%）	△1.0	－	－	－	
（ご参考）前期実績（平成 24 年３月期）	7,001	85	91	△5	△56 銭

３．差異の理由

（１）連結

① 売上高

売上高につきましては、受注価格競争の激化などの影響を受けて若干の減収となりました。

② 営業利益、経常利益、当期純利益

損益面につきましては、当社及び連結子会社株式会社東京製粉機製作所の産業機械関係のたな卸資産評価損及び廃棄損201百万円などを売上原価に計上したこと、ならびに、前述の特別利益の計上、また、特別損失として、半導体事業に係るたな棚卸資産評価損683百万円、固定資産除却損95百万円、減損損失844百万円、投資有価証券評価損270百万円の計上などがあり、減益となりました。

この結果、通期は売上高5,469百万円、営業損失227百万円、経常損失289百万円、当期純損失2,201百万円となりました。

（2）個別

① 売上高

売上高につきましては受注価格競争の激化などの影響を受けて若干の減収となりました。

② 営業利益、経常利益、当期純利益

損益面につきましては、連結同様に、当社の産業機械関係のたな卸資産評価損及び廃棄損191百万円などを売上原価に計上したこと、ならびに前述の特別損失として、半導体事業に係るたな卸資産評価損529百万円、固定資産除却損95百万円、減損損失630百万円、投資有価証券評価損270百万円、関係会社出資金318百万円計上をそれぞれ計上したため、減益となりました。

この結果、通期は売上高4,033百万円、営業損失278百万円、経常損失267百万円、当期純損失2,121百万円となりました。

以　上